

別記仕様

1. 工事名称

平成29年度 八幡及び新岡地区処理施設小型焼却炉解体工事

2. 工事場所

弘前市大字八幡字平塚 外地内

3. 工事期間

平成30年2月28日迄

4. 施工理由

本工事は、八幡及び新岡地区処理施設内にある小型焼却炉を解体撤去するものである。

5. 施工内容及び仕様

(1) 八幡地区処理施設小型焼却炉解体・・・1基

- | | |
|--------------|---|
| 1) 型式 | BN-400 (株)DAITO製 |
| 2) 本体寸法 (mm) | 縦×横×高さ 1,040×1,250×7,300 (煙突高 5,874mm 含む) |
| 3) 材質 | 外部：SS400 鋼板 内部：耐火レンガ等 |
| 4) 形状 | 箱型 |
| 5) 焼却能力 | 9kg/hr |
| 6) 火床面積 | 0.31 m ² |
| 7) 重量 | 2,150kg |
| 8) 油タンク | 屋内設置 脚部固定式 (90ℓ タンク) |
| 9) 小型焼却炉架台寸法 | 縦×横×高さ(mm) 1,500×2,000×300 |

(2) 新岡地区処理施設小型焼却炉解体・・・1基

- | | |
|--------------|---|
| 1) 型式 | BN-400 (株)DAITO製 |
| 2) 本体寸法 (mm) | 縦×横×高さ 1,040×1,250×7,300 (煙突高 5,874mm 含む) |
| 3) 材質 | 外部：SS400 鋼板 内部：耐火レンガ等 |
| 4) 形状 | 箱型 |
| 5) 焼却能力 | 9kg/hr |
| 6) 火床面積 | 0.31 m ² |
| 7) 重量 | 2,150kg |
| 8) 油タンク | 屋外設置 脚部固定式 (190ℓ タンク) |
| 9) 小型焼却炉架台寸法 | 縦×横×高さ(mm) 1,500×3,000×300 |

6. 施工範囲

本仕様書は厚生労働省労働基準局発 基発第401号の2(平成13年4月25日)「廃棄物焼却炉施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策について」並びに関係法令、規則、諸通達、労働安全衛生規則、廃棄物焼却炉施設解体作業マニュアル等を遵守するとともに、周辺環境に対しても十分に配慮して行うこと。

7. 施工手順の検討

本工事は、施設ごとの周辺状況や建物の持つ条件（構造物高さ）等を考慮し、作業場所の分離・養生等を行うこと。

8. 事前調査結果

発注者により、解体対象物のダイオキシン類等の調査（平成 29 年 5 月 25 日採取）を行った結果は、別紙 1 に示す。

なお、八幡及び新岡地区処理施設に設置している小型焼却炉内の断熱材等に石綿は使用されていないが、必要に応じ受注者の負担において確認を行うこと。

9. 作業解体管理区域と保護具の選定

前項の事前調査結果は、3,000pg-T E Q/g を下回るものであるが、解体作業時は、ダイオキシン類濃度が高くなる恐れがあることから、第 3 管理区域とし、保護具のレベル 3 とする。

10. 安全衛生管理・教育仕様

(1) ダイオキシン類業務作業指揮者

1) 受注者は、保護具等の使用、粉じんの飛散防止措置等についての知識、経験を有するダイオキシン類業務作業指揮者を選任し、監督職員の承諾を得ること。

2) ダイオキシン類業務作業指揮者は、解体作業現場に常駐し、作業従事者の保護具着用状況及びダイオキシン類を含む飛散源の湿潤化の確認や作業従事者の指揮を行うこと。

(2) 解体作業主任者

受注者は、コンクリート構造物の解体作業においては、コンクリート造の工作物の解体等作業主任者を選任し、監督職員の承諾を得ること。

(3) 作業主任者

受注者は、高所作業を行う場合は、作業主任者を選任し、監督職員の承諾を得ること。

(4) 健康管理

受注者は、作業従事者に対して、労働安全衛生法に基づく一般健康診断を実施するとともに、ダイオキシン類へのばく露による健康不安を訴える作業従事者に対して、産業医等の意見を踏まえ、必要があると認める場合に、就業上の措置等を適切に行うこと。

また、事故、保護具の破損等により当該作業従事者がダイオキシン類に著しく汚染された可能性が生じた場合は、速やかに当該労働者に医師による診察若しくは処置を受けさせること。

なお、この場合は当該作業従事者の血中ダイオキシン類濃度を測定し、その結果を 30 年間保存すること。

(5) 特別教育

受注者は、作業従事者には、安全衛生規則 592 号の 7 及び特別教育規定により、作業開始前に作業従事者に対してダイオキシン類の危険性、当該施設の汚染度、保護具の適切な使用方法及び作業方法についての特別教育を行い、周知徹底を図ること。

また、作業従事者が新たに加わる場合は、その作業者に対しても、その都度、特別教育を行うこと。

11. 仮設・準備工事

(1) 解体撤去工事に伴う粉塵等の飛散を防止するため、枠組み足場等の仮設物により管理区域を隔離養生すること。

また、その内部の床・壁・屋根等はパネルやビニールシート等で養生するとともに、管理区域内からの汚染物質の流出を防ぐため、パネル同士の隙間や開口部等を目張りし十分な強度を持つ設備

とすること。

- (2) 煙突等の長い構造物を分離する場合は、分離する部分ごとにビニールシート等により覆うなどの養生を行い、管理区域内からの粉塵等の飛散防止を図ること。

また、その分離作業のために、揚重機を利用してワイヤー等で解体物を吊り上げる場合の開口部は極力小さくし、管理区域内を負圧にすること。

- (3) 洗浄・汚染物除去作業中において、養生シート等で隔離した部分以外から排水等が漏洩しないよう、必要に応じて止水堤等の措置を行うこと。
- (4) 工事範囲内をバリケード等で工事範囲を明確に分離し、工事関係者以外の立ち入りを禁止すること。
- (5) 作業従事者の休憩室、保護具着衣室、保護具管理室、シャワー室等の必要な仮設を設置すること。
- (6) 管理区域から管理区域外に通じる作業員の出入口には、エアーシャワーユニット等の汚染物除去装置を設置すること。
- (7) 保湿マット等を設置し、作業従事者の足部に付着した焼却灰等を除去する設備を設けること。
- (8) 除染した廃棄物を仮置きする場合は、仮置きヤードを設置すること。

1 2. 作業環境測定

- (1) 解体作業中において、作業環境中のダイオキシン類及び粉塵測定を行うこと。
- (2) 測定は、当該作業を行う時間の内、粉塵濃度が最も高いと思われる時に行うこと。
- (3) 測定位置は、当該作業を行う場所の内、粉塵濃度が最も高くなるとと思われる位置とすること。
- (4) 測定点は、1箇所以上とすること。

1 3. 周辺環境測定

管理区域内の空気中の粉塵等については、チャコールフィルター等により適切に処理した後、排出基準にしたがい気中に排出すること。

1 4. 発生材処分

解体工事において発生する廃棄物は、場外処分として関係法令にしたがい適正に処分すること。

1 5. 洗浄排水処理

汚染物等を洗浄した際に発生する汚水等は、場外処分として適正に処分すること。

1 6. 埋戻し・整地

解体跡地は埋戻し、アスファルトで復旧すること。

1 7. その他留意事項

- (1) 工事関係車両は、監督職員が指定したルートを交通し、交通安全に努めること。
- (2) 煙突の分離を行う際は、煙突が倒壊しないか事前に確認し、採用工法など監督職員の承諾を得ること。